

# 1. 評価報告概要表

作成日 平成19年11月6日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4074500259		
法人名	医療法人社団 宗正会		
事業所名	グループホーム すまいる		
所在地 (電話番号)	福岡県福津市高平11-15 (電話) 0940-42-1708		
評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡市博多区半道橋2-2-51		
訪問調査日	平成19年10月24日	評価確定日	平成19年12月5日

## 【情報提供票より】(19年10月 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成13年11月5日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9名	常勤 6名 非常勤 3名 常勤換算	6.1名

### (2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	平家造り	
	1階建ての	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (135,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 100 円
	または1日あたり 800円		

### (4) 利用者の概要(10月 日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	4名	要介護2	3名		
要介護3	1名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.6歳	最低	79歳	最高	96歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	聖恵病院 島田歯科
---------	-----------


## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅街の一画の小高い場所に設立されたホームは和風の造りで木のぬくもりが感じられ、暖かく静かな赴きとなっている。中庭には季節感のある樹木が植えられそこから暖かな日差しがホーム内に差し込み入居者は日光浴を楽しむことができる。管理者、職員も穏やかに入居者に寄り添い日常生活を送っている様子が伺え、入居者の穏やかな表情がみられた。9名の入居者と管理者、職員が家族のように寄り添い理念である「安心 安全 安楽」を実践している様子が伺える。日常生活では入居者の特性や個性を活かし菜園作りや趣味活動を取り入れ細やかな配慮がなされている。母体である病院との連携もスムーズに図られ入居者の体調管理等充分になされ家族は安心しており、近隣から見学や入居申し込み等が増えている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>近隣との関わり 運営推進会議のあり方や福津市担当者との連携等課題に対し、管理者、職員、母体の病院ともに改善に取り組んでいる。最近では近隣住民と挨拶を交わすようになっているが、さらに地域に密着し活動できるようホームの良さや強みをアピールするために理念の啓発、広報に力を入れられることを期待する。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価を踏まえ、管理者と職員の話し合いにより、より良いホーム作りのために努力している。利用者の思いや要望に応えられるようホーム内の体制を整えたりグループホーム協議会に参加し他の施設を見学、交流を図る等サービス向上に取り組んでいる。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>民生委員、市の担当者、家族代表、職員等の出席がありホーム内の行事の報告、市からの情報収集等の内容となっている。ホームの優れているところを地域に知ってもらう為に区長、地域包括支援センターも会議に出席されるよう働きかけいくことで、より一層会議が充実し地域住民の理解も深まると思われる。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>ホームの玄関に意見箱を設置し、折りある毎に面会時や電話にて家族と会話をする機会を作っている。家族からの要望の多い外出の機会を多くして欲しいという課題については職員の体制を整え、できる限り個別に外出できるようにしている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣にある保育所との交流や近所へ買い物へ行く等で徐々に連携が図られている。また、地域の行事への参加、ホームの入り口に掲示板を設けホームを知ってもらえるよう努力している。今後、ホームを開放し介護相談や勉強会等、地域住民対象に行う等でさらに地域と連携が図られることを期待する。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくっている	笑顔をもって、安心、安全、安楽を提供するという内容の理念を掲げ利用者への尊厳の気持ちを感じられるが、事業所が地域の中でどのように活動し役割を持つていくかが明記されていない。		利用者にとって、安心して生活できる理念が掲げられており、事業所が地域の中に溶け込み共に暮らしていることする姿は窺い知れるが、地域での役割や活動を入れ込んだ理念を作りあげると地域性豊かになると思われる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	安心、安全、安楽を提供する事を毎日申し送り管理職者が職員へ伝えそれを職員全員共有し実践に取り組んでいる。理念を随時確認できるように理念の書いてあるカードを携帯している。		
2.地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭りの参加や町内の草取り作業に参加することで地元との交流を図っている。近隣住民への挨拶を積極的に行う等事業所として努力している。		近隣住民からの要望にてホームが対応しており、近隣住民も徐々に理解されるようになり職員が挨拶すると返事が返ってくるようになった。このようなことから、地域との交流が図られるようになったが、ホームを近隣、地域へアピールする機会を作り、交流の場を多くすることで更なる地域との深い繋がりとすることを期待する。
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員全員で話し合い項目毎に具体的に取り組みを検討行った。それにより、年間の目標を立て改善を行っていく予定である。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在半年に1回開催している。参加者は民生委員、市の担当者、家族代表、法人関係者、職員等で構成されている。会議の内容はホームからの報告や市からの情報収集に留まっている。		民生委員、市の担当者の出席がありホームの頑張りをよく理解されているが、運営推進会議を利用しより多くの地域住民へホームの強みをアピールすることで地域住民の理解も深まると思われる為、更に積極的な会議となることを期待する。

グループホーム すまいる

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム運営やその他の事柄で不明な点があれば市の担当者のもとへ相談に出向いているが、情報交換やホームの強みをアピールする機会が少ない。		市へ出向き担当者と良好な関係が構築できているが、ホームが地域に根付き活動できる機会や住民への情報提供の場を設ける等担当者を交えて話し合いをすることで、更にホームのすばらしさを引き出すことを希望する。
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人単位で講師を招き研修を行っている。その後はホームで勉強会を開き職員全員が理解できるようにしている。必要性のある利用者へは入居時に説明し、家族会でも説明を行っている。		
4.理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りの発行、家族会の開催は3ヶ月に1度実施している。その折に利用者の状況や金銭管理、ホームの行事の通知を行っている。また、面会時に必ず利用者の状態や暮らしぶりを報告している。家族は月に2~3度は面会に訪れる為その都度連絡事項や報告は漏れがないよう職員全員で確認している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会の際に声をかけ話しやすい雰囲気を作っている。ホームの玄関に意見箱を設置し、福岡県の窓口も掲示している。また、母体の病院の看護師への相談も受け付け、家族の意見を反映できるようにしている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホームで欠員が出た場合は法人内異動にて対応することが多い。入職者および退職者については家族会にて報告を行っており、担当者が替わることは家族面会時にお知らせをしている。利用者が馴染めるよう交代時期は早めにホーム内で顔見知りになるようにしている。		

グループホーム すまいる

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>人柄を重視し介護職として適しているか適正を見極めている。法人内異動もありその時々で研修を行っている。また、新人研修リストを作成しそれによって職員は研修を受け漏れが無い確認し、スキルアップを段階的に図っている。</p>		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>社会福祉協議会主催の人権研修等に職員は積極的に参加している。管理者は研修に出席しやすいように配慮している。</p>		
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人による研修とホーム独自の研修が月1回行われており職員は全員出席できている。外部研修は随時受けられるよう勤務体制を調整しその後、ホーム内で伝達講習を実施している。</p>		
14	22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会にて他のホームを見学する機会を作り情報交換の場を設け、サービスの質の向上に努めている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>家族が本人を直接ホームに連れて来られその後入居という形が多かったが、事前に見学に来てもらったりホームから出向き面談したり、希望があれば体験入居も対応できる。</p>		

グループホーム すまいる

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている</p>	<p>本人の話を傾聴し本人の思いを組み取り、本人に寄り添うことにより職員と心が通じ合っている。利用者の特技を引き出しながら野菜作り等で収穫を共に喜び合っている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人の希望を聴き取り、家族からの希望も考慮し一人ひとりの生活パターンに合わせている。また、趣味活動も様々あり利用者にあわせ職員は見守りながら寄り添っている。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人、家族の希望を聴き取り、それに沿った計画を作成し、作成者、担当者等でサービス担当者会議を開き、その後全職員が計画書を閲覧できるようにしている。</p>		
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回のモニタリングにより見直しを行っている。利用者の状態の変化や希望があった場合は随時家族と連絡を取り、カンファレンスを開き計画を変更している。</p>		

グループホーム すまいる

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出の機会を多くして欲しいと家族の要望が多く、できる限り法人の行事に参加したり個別に外出支援を行っている。		職員の体制を整え利用者に対し支援を行う努力はみられ、利用者の表情からも安心しながらの暮らしは窺えるが、事業所の特徴を出す為に、病院とホームが連携を強化し法人間の特性を活かしホームでできることや、特徴を地域にアピールする機会を作り開放されたホームの姿を明らかにされることを期待する。
を					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら適切な医療を受けられるように支援している	主治医への受診は家族と共に職員も同行し本人の状態を把握できるようにしている。ホーム内で伝達し全職員が共有している。週1回看護師が訪問し利用者の状態を細かく観察し、その結果を主治医に報告をしている。眼科、歯科等の受診も個別対応している。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルの指針にて、入所時及び家族会で説明し話し合いを行っている。現状では、ターミナルケアの希望者はまだいないが、ホームでできる限りケアをしていきたいと管理者、職員全員方針を共有している。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人の人格、性格を重んじ、特に失禁時や入浴時には心配りを忘れない。また、記録は個人名を表記しないように、鍵のかかる書庫に保管している。ホーム内の写真や掲示物に関しても家族の了解を得ている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の其々の習慣や生活パターンに合わせて過ごせるよう支援を行っている。日光浴を楽しむ利用者やソファで寛いだり、その日の気分で生活している。		

グループホーム すまいる

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえや味付け等職員が見守り利用者が行っている。献立はその日の材料等で利用者の希望を聴き取り考えている。後片付けも利用者職員と一緒に段取り良く雑談等交えながら楽しくしている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望により入浴支援行っている。毎日入浴する利用者や順番等その日によって異なり職員が確認し援助している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や特技を活かし役割を持ってもらったり、楽しく趣味活動ができるよう支援している。野菜作りや料理、生け花等、利用者其々が思いのままに活動している。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの近隣への買い物や近辺の散歩をしたり、利用者と職員と一緒に外出する機会を作っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は鍵はかけず自由に出入りできるようにしているが、外の門扉は近隣との関係と家族からの要望で安全面に考慮し施錠している。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の避難訓練はマニュアルに従い日中、夜間共実施している。緊急時に関しては、近隣に法人関係者の自宅があり協力体制は整っている。非常食について、現在検討中である。		

グループホーム すまいる

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体の病院の栄養士が作成した献立を参考にしバランスを考慮している。利用者一人ひとりのチェック表に記録されているが、食事量、水分量を明確に記録されていない。		献立や水分補給は心配されており利用者に支障なく毎日が充実したものとなっているが、チェック表に明確に摂取量を記録することにより利用者の体調管理に役立つ為、チェック表を活用することが望まれる。
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やリビングから中庭が臨め季節感のある樹木と暖かい日差しを目にすることができる。廊下にも柔らかい日差しが入り日光浴を楽しむことができるよう椅子が配置され、利用者は一時を楽しんでいる。トイレの灯りや臭い等も配慮されている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者其々の使い勝手の良いように家具が配置され、馴染み親しんだ小物もさりげなく置かれている。窓からは庭木が見え採光や景観も心地の良い環境になっている。		